

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

★出掛ける前に必要な小物やエギを購入

お買い物リスト | 釣行前日までに準備! 疑問があったら釣具店に!!

エギ **2.5号~3.5号を2~3つ**



冬~春は大型を意識するため3.5号前後がメインで、夏~秋は新子を相手にするので2.5号前後を用意。カラーは視認性の良いピンク、オレンジが基本です。

エギング用スナップ **S、Mサイズを2~3個**



エギの交換をスムーズに行うために必要です。3号以下の餌木にはSサイズを使用。ちなみに、極小クリップ付きヨリモドシでも代用できます。



ショックリーダー **2~3号**



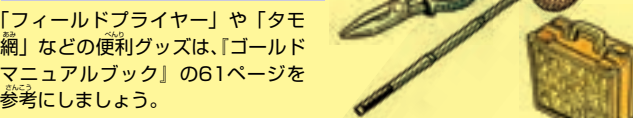
※堤防や磯では安全のためにライフジャケットを着て、釣りを楽しみましょう。

偏光サングラス **1つ**



サイトフィッシング(イカの姿を確認して釣る方法)が楽しめるので、海面の乱反射を防ぐ偏光タイプを購入しましょう。

その他あると便利グッズ



「フィールドブライヤー」や「タモ網」などの便利グッズは、「ゴールドマニュアルブック」の61ページを参考にしましょう。

★釣るための準備

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを!

【スピニングリールの特徴】

ベールアームが回転して糸を巻き取るタイプ。

ストッパーレバー

通常はラインを巻き取る方向で固定します。

ベールアーム

ここに道糸を通して巻く。キャストする時は開きます。

ハンドル

道糸を巻くためのとってです。

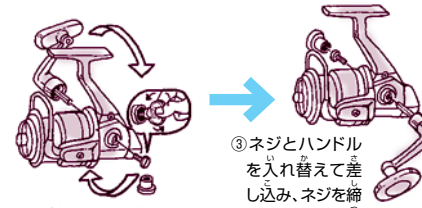
ドラグ

ここを締めることで道糸にブレーキがかかります。また緩めると道糸が出やすくなります。

ハンドルを交換して使いやすくしよう

スピニングリールはハンドルの左右交換が簡単にできます。ロッド操作は利き手の方が上手いので右利きの方は、左ハンドルに。左利きの方は、右ハンドルに変えるのがベストです。

①ハンドルの反対に付いているキャップを外します。



③ネジとハンドルを入れ替えて差し込み、ネジを締め、キャップを付けて完了です。

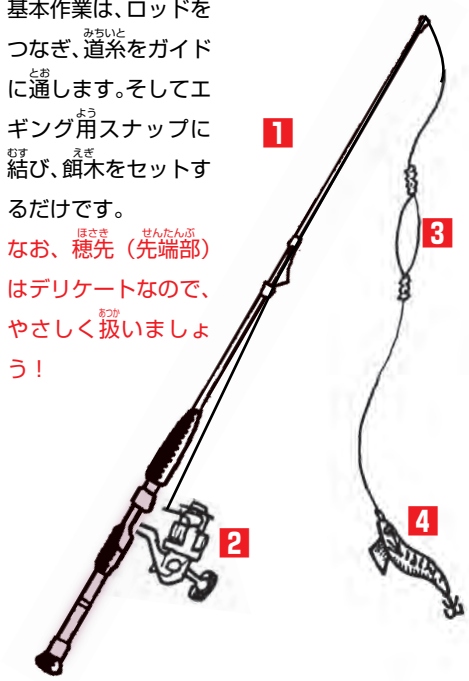
②10円玉などの硬貨でネジを回してネジ止めと抜き、ハンドルも外します。

【釣具のセッティング】

1~4の順でセットしよう

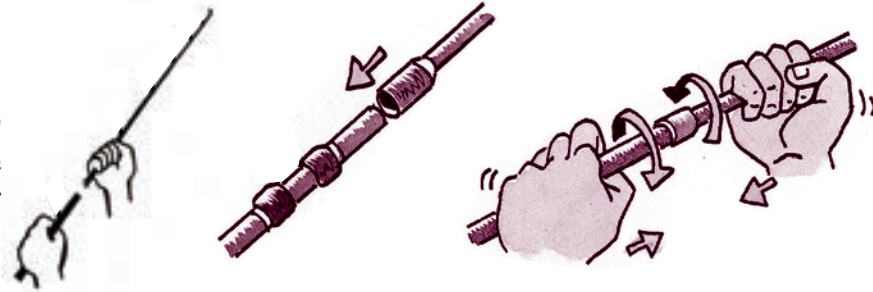
基本作業は、ロッドをつなぎ、道糸をガイドに通します。そしてエギング用スナップに結び、餌木をセットするだけです。

なお、穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱きましょう!



1 ロッドを組み立てる

穂先から順に継いでいきましょう。継ぎ目の根元を持ち、ジョイント部を合わせ、軽くねじ込むように押し込みます。ラインを通すガイドを一直線にすることも忘れずに!



2 ロッドの中にメインラインを通す



1 備え付けのワイヤーをほくして伸ばします。



2 穂先にワイヤーの先端部を入れます。



3 エントランスガイドまで先端部を入れます。



4 ベールを開けてメインラインを出せる状態にします。糸が出すぎると糸絡みの原因になるので注意しましょう。



5 写真のようにエントランスガイドの輪の中にメインラインを通し、ワイヤーの先端リングにも通します。この時、メインラインは30cmくらい余裕を持たせて通しておきましょう。

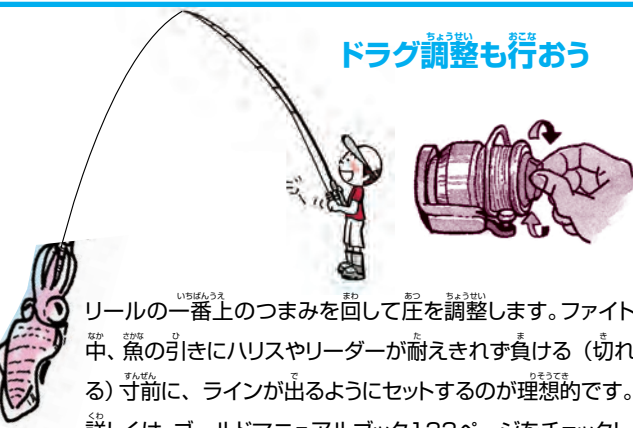


6 ワイヤーを穂先から抜いて、メインラインを引き抜いて完了です。

3 ラインシステムを組む



『ゴールドマニュアルブック』の131ページにある、スパイダーヒッチとセイカイノットでラインシステムを組みましょう。



ドラグ調整も行おう

リールの一番上のつまみを回して圧を調整します。ファイト中、魚の引きにハリスやリーダーが耐えきれず負ける(切れる)寸前に、ラインが出るようにセットするのが理想的です。詳しくは、ゴールドマニュアルブック133ページをチェック!

4 リーダーの先端にエギング用スナップ、または極小スナップ付きヨリモドシを結び、エギをセット

※どちらも下記クリンチノットで対応しましょう。



1 まず、こちらを引っ張り絞めます。



2 次にラインを引いて結び目をヨリモドシまで移動させしっかり止めましょう。

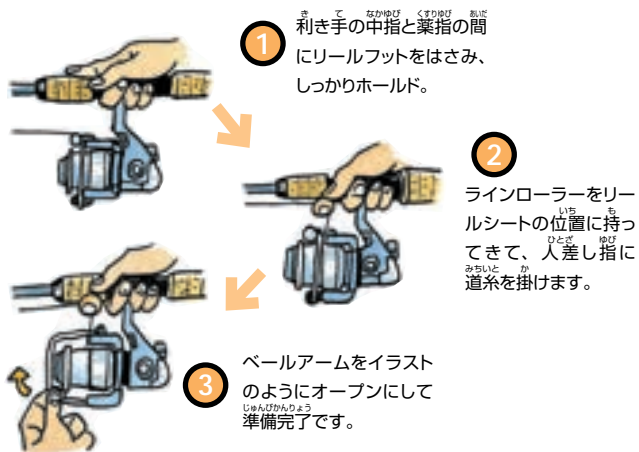


3 クリップを戻して止めます。

※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!

キャストステイニング

キャストに入る前は、ロッドをしっかりと握って備えましょう。

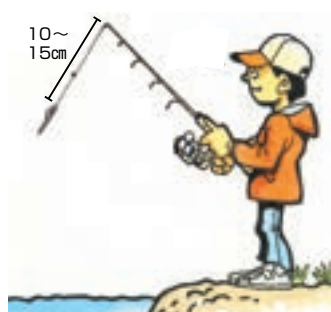


ダブルハンドでのオーバーヘッドキャスト



① アドレス

脇を締めて、狙うポイントの正面にロッドを向けてイラストのように構えます。ルアーのたらし（穂先からルアーまでの距離）は10～15cmにします。



※回収時のルアーの巻き込み過ぎに注意!



穂先を痛める一番の原因で、結果、破損。釣りが出来なくなります。ルアーが水面に見えたらリールを巻くのを止めて、距離を確認。手元にくるように回収しましょう。

※むやみにロッドを地面に置かない!
自分はもちろん、他の人に踏まれて折れることがよくあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、地面に寝かせないように置きます!!

★釣り方のコツ: アオリイカ編

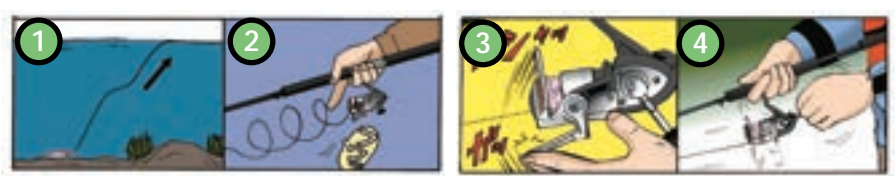
エギをボトム（海底）までしっかり落とし、シャクって誘い、フォールで抱かせる!!

★ポイントはココ
堤防や磯の先端など潮通しが良い場所がベストですが、沖向きのストラクチャー（障害物）周りなどでもチャンスはあります。堤防ではスミ跡を発見したら釣れていた証拠。そこを中心に探ると良い釣果が期待できます。

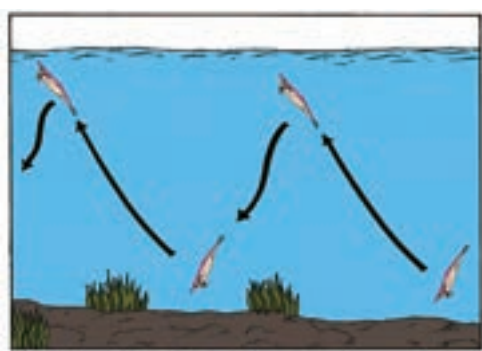
基本的には海底付近に生息しているアオリイカ。ポイントを決めたら、エギをしっかりとボトム（底）まで落とすことが重要ポイントになります。エギは、跳ね上げると大きくスライドしながら上昇するのが特徴。よって好奇心旺盛なアオリを誘うのに適しています。ポイント周辺にエギをキャストして海底まで落とし、足元から頭の上まで素早くロッドをシャクって誘います。アオリはエギが再度落ち込んでいく（フォール）間に抱きついてくるので集中してアタリを捕えましょう。

きちんとボトムをとる方法は…

ロッドの穂先を海面に向け、ラインの出をサポート。リールから勢よく出ている糸が、一瞬フワッとコイル状に弛んだらボトムに着いた証拠です。なお、ボトム着いたら、素早くリールのバールアームを返し、リールを巻いて糸フケを取る。ラインが海面までピンと張るまで巻きましょう。



基本のシャクリでまずチェック!



下向きに構えたロッドを、いきなり頭まで鋭く引き上げるのがポイント。エギが大きくスライドするよう急激に力を加えましょう。水中のイメージはイラストの通りです。

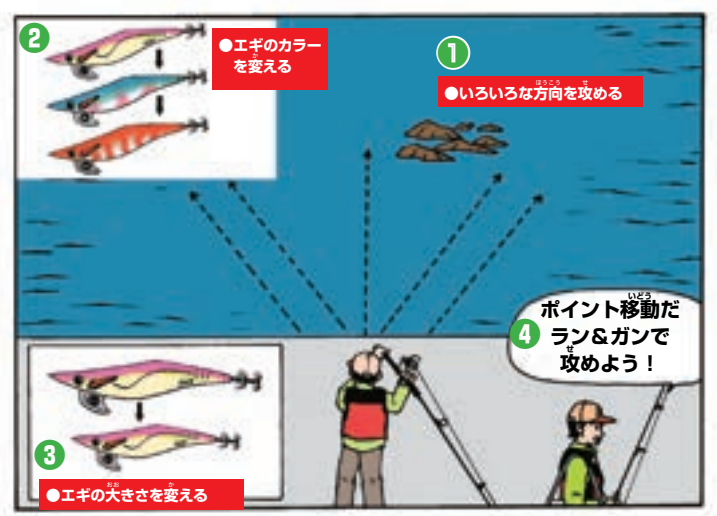
2段、3段シャクリも試して誘おう!



基本のシャクリで反応がないようなら、こちらを試してみましょう。やり方は、最初にエギ頭を上げる感じで素早く小刻みにロッドをシャクリ、再度大きくシャクリのだけです。素早いコンビネーションで3回（段）行なうと、より大きなアクションとなり、効果テキメンです。

※アタリが無い場合は①～④の順で探ろう

いろいろなシャクリパターンを試す他、ポイントへのアプローチ（角度）を変えるのも戦略のひとつです。またエギのカラーを変えたり、その場を調べてポイントチェンジ。ラン＆ガン（移動して多くのポイントを攻める）の方が勝負が早いこともあります。

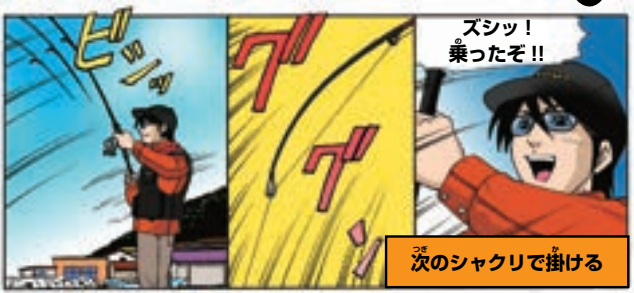


ヒットパターンは2タイプ!

アタリは“ラインの走り”と“次のシャクリで掛ける”2パターンでとることができます。いずれもアタリがあった後は、そのままラインを緩めないように巻き寄せ、ランディングに持ち込みましょう。

ラインの走りアワセ

エギのフォール中にラインが海面を走るように動かすことができます。これがアオリからのシグナルなので、瞬時にロッドをあおりフッキングさせましょう。



ラインが走らなくても、イカが抱きついてくることも多々あります。この場合は次のシャクリがフッキングを兼ねます。シャクった時、ズシッと重くなるったら、さらにロッドを起こしてしっかり掛けましょう。



※かたづけ上手は、釣り上手!
返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日までにはお手入れをし、元通りに梱包しましょう。また釣具にキズを付いたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れてください。

ロッドをたたむ場合は…



バッド部の継ぎ目から順に外して行きます。ジョイント部がキック縮まっている場合は、継ぎ目の部分を持ち、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜けます。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れてしまうので要注意!